

平成27年 全国山火事予防運動

山火事の約7割は1月～5月にかけて発生しています。

林野庁では「伝えよう 森の大事さ 火の怖さ」を統一標語に、3月1日～7日を中心として「全国山火事予防運動」を実施し、予防意識の高揚や森林保全管理体制の強化を図っています。



山火事予防運動パトロール



山火事予防運動実施中

主唱：林野庁・消防庁



平成27年山火事予防ポスター制作・展開委員会
主催：(一財)日本森林林業振興協会
協賛：文部科学省・環境省・林野庁
全国森林組合連合会

ポスター設計
長野県立大宮高等学校2年 森元 龍花
監修
群馬県民力団 飯沼 浩子

■春先に多い山火事

山火事の消火は難しく、発生すれば貴重な森林を消失します。また、焼失した森林が持っていた国土の保全、水源のかん養等の機能が回復するまでには、長い年月と多くの労力を必要とします。

冬から春先にかけて、森林内に落ち葉が積もって燃えやすい状態になるとともに、空気の乾燥や季節風、フェー

ン現象などの自然現象が重なり、山火事発生の危険性が高くなります。

昨年は全国的に4月及び5月の降水量が平年を下回っていたこともあって、10ヘクタールを超える比較的大規模な林野火災が連続して発生しました。

とりわけ、これから暖かくなるにつれ、山に入る機会も多くなりますが、特に、空気が乾いている日や風が強い日にはたき火、火入れをしないなど、火の取扱には十分な注意が必要です。



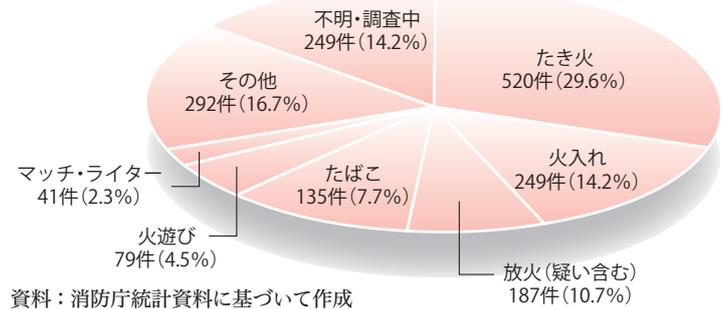
林野火災防ぎょ訓練



山火事予防ポスターの掲示

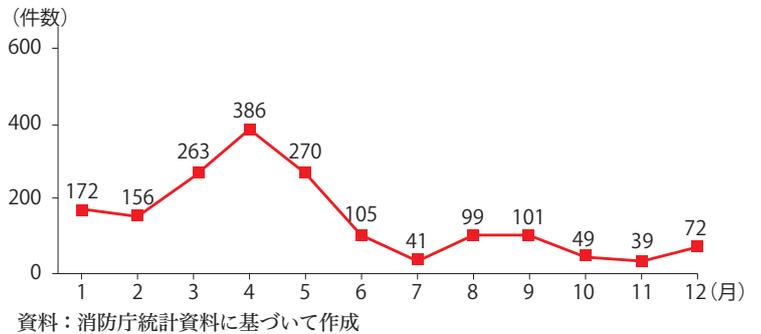
原因別発生件数 (平成21～25年の平均)

出火原因のほとんどは人為によるものであり、たき火が29.6%で最も多く、次いで火入れ、放火(疑い含む)、たばこ等となっている。



月別発生件数 (平成21～25年の平均)

林野火災は月別で見ると空気が乾燥する冬から春にかけて多発する傾向にある。



林野火災の状況 (平成21～25年)

林野火災は過去5ヶ年平均で年間約1.8千件発生し、焼損面積は約1千ha、損害額は約4億6百万円となっている。

区分/年次	H21	H22	H23	H24	H25	平均
出火件数(件)	2,084	1,392	2,093	1,178	2,020	1,753
焼損面積(ha)	1,064	755	2,071	372	971	1,047
損害額(百万円)	521	71	1,017	190	233	406

資料：消防庁統計資料に基づいて作成

■ **主な原因は人間の不注意**
 林野火災の原因を見ると、「たき火」が29.6%で最も多く、次いで「火入れ」、「放火(疑い含む)」、「たばこ」となっています。つまり、山火事の原因は、人間の不注意によって起きていることとなります。山火事の多くは、私達一人ひとりの注意で防止できるのです。



予防のために

これから暖かくなるにつれ、山に入る機会が多くなります。貴重な森林を山火事から守るため、次のことに十分注意してください。

- 枯れ草等のある場所ではたき火をしない
- 火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火する
- 強風時及び乾燥時には、たき火や火入れをしない
- 火入れを行う際は、必ず許可を受ける
- たばこは指定された場所で吸い、吸いながらは必ず消して投げ捨てない
- 火遊びはしない